

私が抗癌剤治療のために入院していた時のことです。「どうせなら、楽しい入院生活にしよう。時間はたっぷりあるので贅沢に生活しよう」と思いました。

目がさめると、ベッドの上で坐禅と朝のお勤めをします。場所柄大きな声でお経を読むのは気がひけて、少し控えめにしました。その後は急須でお煎茶を入れ、食後はコーヒーを頂きます。昼食との間にはお抹茶も点てます。そのため、二泊三日とは思えないくらい沢山の荷物を持参する私を、看護師さん達は「お帰り〜」と明るく迎えてくれます。

三回目の入院治療の時、朝食後のコーヒーを淹れようと冷蔵庫にコーヒー豆を取りに行きました。しかしその容器に触れた瞬間、チクツと刺すような痛みが走ったのです。容器が冷えすぎているのかと思ったのですが、念のため医師に聞いてみました。すると薬の副作用で知覚過敏になり、冷たいものに触れると痛むのだそうです。治療を重ねると症状はさらに進み、冬場は、金属、ガラス、木材を触ることができなくなりました。さらに手や足や口が痺れ、よく物を落とすようになったので、手袋を使うことにしました。手にフィットした、指先から掌にかけてゴムが付いたものです。これで痺れが少し楽になり、さらに窓ガラスに掌をピタツとつけると簡単に開け閉めもできなかなか便利でした。ただ衣服を着替える時は少々不便でした。衣を着る時、紐を結ぶことが思い通りにできずいららしてしまいました。

その時に私はあらためて気が付きました。この手は、無意識に力を入れたりゆるめたり、時にはすべらせているのだな…手加減という言葉があるけれど、私達はこんなすばらしい道具を頂いているのだな…ということ。

そのすばらしい道具をどう使うのか。たとえば目の前のゴミを、その辺に捨てることもできますが、拾うこともできます。相手を傷つけることもできれば、手をさしのべることもできます。そして掌を合わせることもできるのです。さらに私達は、この「生命」というすばらしい道具を頂いています。自分の欲望を満たすためだけに使えば、奪いあい、争いとなり、餓鬼にも修羅にもなるでしょう。しかし周りの人のために使えば、そこに菩薩さまの世界がひろがるのです。あなたはそのすばらしい道具「生命」を、どう使いますか。